

新・資本主義 の 幕開け

Vol.1

FBの暗号資産公開、
これは国家融解の始まりとなるであろう

text by Gen Matsuda

文 松田 元

フェイスブック(FB)の暗号通貨(暗号資産)について、6月18日を迎え、ようやくそのベールを脱ぐこととなりました。全貌が明らかになったわけではなく、ブロックチェーン技術の細部についてはほぼ触れられておりませんでした。肝心の非中央集権制についても正直ピンとくる内容ではありません。とはいえ、概略は発表されましたので、当該コインが暗号通貨の要件に該当するかしないかにかかわらず、決済周りの業界にとっては、「超」刺激的な材料になっていることは間違いないさそうです。

発表直後から、調査が完了するまで仮想通貨開発を停止するように国家から求められるなど、その反響は流石F

B、実に甚大です。リリースされてすぐにWhite Paper(白書、報告書)を読みましたが、パートナリーに錚々たるヘビー級の企業が名を連ねていることから、「あ、これは銀行と為替を取りにきたな」と直感的に感じました。1台も車を有さず世界で最も巨大なタクシー会社になったUber。1つも物件を有さず世界一のホテル企業となったAirbnb。FBが目指しているフィンテック領域はまさにここで、恐らく近い将来、世界に1つも支店を持たず、世界最強の銀行になることを想定しているのだと思います。

資料を見るに、パートナリー企業には数億円規模のライセンスフィーを課し、分散化に向けて(あるいはそう称するために)も、恐らく特定領域の開発に独占権を付与し、パワーバランスの取れたエコシステムを構築するとともに、実質半中央集権的な構造で、供給通貨の需給管理を行っていくものと思われまます。中央銀行には、「発券銀行」、「国家の銀行」、「銀行の銀行」という三大側面(機能)がある、というのは、多くの方が中学校の政治経済(公民)で習ったかと思いますが、まさにFBがやろうとしているスキームは、表現こそ柔らかなものであれ(インドなどの口座座持たない方のためなど)、確実に中央銀行のそれを実現しうるものです。

凄まじいのは、中央銀行を目指す

いうそれが「一応」民間企業から発出されていることであり、その民間企業は世界に20億人ものユーザーを抱えているという点です。利下げの論点で多分に話題にあがるFRB(米連邦準備制度理事会)も実は民間銀行であることはあまり知られておりませんが、個人的には、FBのコイン誕生は、FRBの誕生と同等かあるいはそれを超えるインパクトになることが予想されます。

FBは明らかに中国のエコシステムを意識しています。White PaperでWeChatについても言及していますし、マークの奥様は中国の華です。一带一路における中央銀行のポジションを狙っているに違いない。WeChatは如何に便利とはいえ非中華圏には馴染みが薄い。WhatsAppやFBなどで世界をカバーするFBが、ただの1つも支店を持たずに、新生FRBにのし上がったら、あとは完成したあとにFBとWeChatを統合して、次世代における世界銀行の誕生です。この構想力と実行力は、半端ではないです。

未来に不確実な「可能性」が存在する以上、そこにベットする次代の傑物(革命家)が求められるのです。そして我々に残された時間は、そう多くないように感じます。



Profile

実業家、投資家。
早稲田大学商学部卒業。在学中より学生ベンチャーを創業。
同時期、複数のベンチャー企業におけるインキュベーションを実施。
卒業前の2006年2月、アス株式会社を創業。
現職は、株式会社オウケイエイヴ代表取締役社長、OKfinc LTD. CEO、Wowow Pte.の事業・技術開発支援を担う。